



旧荊崎町の花  
ひまわり

## 荊崎地区区会連合会 VOL: R5 - 2号

# 区会くきざき

発行 荊崎地区区会連合会  
発行責任者 会長 小原 正彦  
編集責任者 副会長 倉本 茂樹

### 令和5年度荊崎地区タウンミーティング について

荊崎地区区会連合会副会長 倉本 茂樹

当初、昨年6月3日(土)に計画されていた「荊崎地区タウンミーティング」が、台風2号の影響の豪雨による浸水被害等により延期され、10月14日(土)午前中ふれあいプラザ多目的ホールにおいて開催されました。当日の出席者は、市職員を除きわずか15名程で、限られた時間とはいえ、市長と対話ができる折角の機会でしたのに極めて残念に思います。

最初に市長から、6月の森の里における谷田川越水、雨水排水管損傷による団地内浸水に関して、その後の茨城県の動き等について説明がありました。

「谷田川は、浸水指定区域になつていなかったが、指定について設定中である」こと、「約100ヘクタールの浸水農業被害があり、米の作柄が昨年比8割程度で、つくばみらい市等と補助金資料を作成中である」とのことでした。

本題に入つて「世界の明日が見えるまち」と題するスライドによる最近の市政等について説明がありました。スローガンは「ともに創る」で、6つのマニフェスト①徹底した行政改革②安心子育て③頼れる福祉④便利なインフラ⑤活気ある地域⑥誇れるまちについて、これらに基づく市長1期目の82の公約が90・4%達成されており、2期目の135の公約が89・7%達成と順調であることが強調されました。説明のなかで「つくばスーパーサイエンスシティ構想」について現行法改正が待たれるものの、高齢化率が最も高い宝陽台における自動運転ロボットやインターネット投票の説明に大きな関心を抱きました。

また、4月から地域交流センターの機能を拡充して市政の相談窓口を設け、無料Wi-Fiを設置していることが強調

され、積極的利活用が呼びかけられました。学校教育関係では、地域とつながって子供を育てる「コミュニティ・スクール」の説明がありました。また、特に荊崎地区については「荊崎地域包括センター」の設置や「荊崎庁舎跡地利活用」・「荊崎保健センター」について今後の予定を含めて説明がありました。市長の説明終了後、出席住民との質疑応答がありました。紙面の都合上省略しますが、締めくくりに際し、市長から「本日の意見等を聞きっぱなしにはしない」とのお言葉がありました。

### 高見原を盛り上げましょう！

高見原ふれあい会(つくば市周辺市街地活性協議会)

会長 橋本 幸雄

「わっしょい！わっしょい！」高見原神輿が復活しました！皆さん、「高見原ふれあい会」をご存知でしょうか？、多分知らない方が多いと思います。

当会は、令和3年10月に、まちづくりに関心のあるメンバーが中心となつて、「地域のつながり・連携・強化」を目的に、高見原地域の皆様にとつてより暮らしやすい環境を実現する団体として設立されました。

その手段として、令和5年8月、十数年前まで高見原で実施してきた高見原神輿を使った祭りを、マスタ高見原店の駐車場を会場に「高見原神輿祭り」として復活させました。

このイベントは、高見原一丁目から五丁目までの町内会の皆様や、マスタ荊崎店、マツモトキヨシつくば高見原店、100円ショップ、フレッツ荊崎店のご協力を頂けたことで、実施することができました。

各丁目からは、テント、机、イス等の物品の貸出をはじめ、全部で113名の方がスタッフとしてご協力を頂きました。ま

た、マズダさんをはじめ各店舗からは食材、物品提供にご協力を頂きました。お陰様で、事故もなく無事に終了することができました。ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございます。

また、「猛暑の中、「高見原神輿祭り」にご来場頂いた住民の皆様にも、本当に感謝申し上げます。

更に、令和5年10月には、一丁目から五丁目までの子供会の皆様にご協力を頂き、子供たちのイベントとして、初めて「高見原ハロウィン」を高見原四丁目会館をお借りして実施しました。ハロウィンには、77名の子供たちと子供会から32名の方が付き添い等のスタツフとしてご参加頂きました。

今回のハロウィンは、つくば市の「アイデアソン子ども食堂」とのコラボで実施し、子供たちへの食事の提供や各チエックポイントでのクイズの実施などにご協力を頂きました。こちらも事故もなく無事終了することができました。子供会の皆様、アイデアソンの皆様、高見原四丁目区会様、高見原五丁目区会様、ヤツクスつくば高見店様、湯田接骨院様、その他ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございます。

高見原ハロウィンは、実施してみて、たくさんの子供たちの笑顔を見ることができ、本当に良かったと思っております。

今後も、高見原地区の皆様に楽しいイベントを企画・実行していきますので、当会へのご理解・ご協力のほど、よろしく願います。

なお、ふれあい会では、現在会員を募集しております。一緒にまちづくりに参加してみませんか？

(mailto:takamihara.fureaikai@gmail.com)

興味のある方、ご連絡をお願いします。

公式 LINE



@ 344abfdd



<神輿祭り>



<ハロウィン>



## 団塊の世代が後期高齢者になる 2025年問題

荖崎地区区会連合会顧問 稲川 誠一

### 1. 概要

団塊の世代が75歳を迎えるそのピークが1年後の

2025年となる。その数は、約2,200万人を超える予想されており、国民の4人に一人が75歳以上の後期高齢者になる。特に医療や介護サービスの利用が急増する中、病院・医師・看護師の数が減少傾向にあり、「要介護」の高齢者が急増する一方で、介護に携わる人材の不足が懸念されて、介護が必要な「要介護者」に認定されているにもかかわらず、施設に入所できず適切な介護サービスを受けられないといったことが予想されている。

要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が提供されるように官民一体となつて進めてきた地域包括ケアシステム。特に生活支援・介護予防などは地域住民が中心となつてボランティアとして担う生活支援体制整備事業の構築が強く望まれている。

### 2. つくば市の取り組み

つくば市福祉部地域包括支援課は、平成27年(2017年)10月から医師やケアマネジャーなど専門職で構成されるつくば市地域ケア会議・生活支援体制整備推進会議(以下地域ケア会議)を第1層協議体として開催してきた。加えて地域の支え合いの輪を広げて行くために、市内を7地区に分けて「第2層協議体」の協議も地域ケア会議に加わり共に協議を重ねきて、これまで30回以上となる。

### 3. 荖崎地区の取り組み

荖崎地区では、地域包括支援課の協力を得て、社会福祉協議会南支所が荖崎地域包



括支援センターと茎崎圏域生活支援コーディネーターが協働して支えあいの地域づくりとして通いの場（居場所）、話し合いの場（協議体）、見守り・声かけ運動、ごみ出し、庭木の剪定、移動支援（買い物や病院へのアクセス）などについて地域住民らと協議を重ねてきた。高齢者の社会参加と生きがいを見つけ認知症についても介護予防にもつながるよう「茎崎圏域地域支えあい会議」通称「くあなたたの力 あなたたの心 支えあい街 くきざき」として、地域ケア会議と同様30回以上協議を重ねてきた。

4. 茨城県保健医療部健康推進課

①県内での協議体設置状況（令和5年4月現在）は、第1層協議体として41市町村、第2層協議体では、29市町村が設置され活動してきた。新型コロナウイルス感染拡大によるパンデミック下で縮小されていたが、活動を再開する動きが多くなってきた。また、再開に合わせて、協議体のメンバーの再編や圏域設定方法（中学校区、小学校区、旧市町村区）の見直しを進めている市町村も複数箇所出てきた。

5. 課題

協議体の運営については、住民主体で取り組む必要があることから、行政側が目指す地域の姿を明確にし、その実現を目指すための事業の一つとして生活支援体制整備事業を捉えた上で、協議体や生活支援コーディネーターとの関わりに課題を残している。

住民主体で取り組む事業であることから、生活支援コーディネーターは、協議体構成員との関わり方や協議体での話し合いを地域での取組へつなげることに課題を感じている。

6. 県内3市での取組事例

令和4年度に健康麻雀サロンを立ち上げたなどの希望があり、現在では、この取り組みが第1層協議体で情報共有され、県内の他の地域でも健康麻雀の通いの場として立ち上げが広がり、更に隣接する地域からも参加者が集まる状況となっている。

中学校との連携による高齢者世帯への草刈り支援の地区の取組みが、第2層協議体で共有され、他地区においても中学生による草刈りやごみ出しに困難感を感じている高齢者世帯への支援の検討が始まった。

団地で毎朝ラジオ体操を行い、そこから協議体が立ち上がったケース。その後、メンバーの認知症への興味から、認知症サポーター養成講座の受講やチームオレنج※としての取組へ繋がった。

（※近隣の認知症サポーターがチームを組み、認知症の人や家族に対する生活面の早期からの支援等を行う取り組み）

7. 市町村の取組支援状況

県としては、生活支援コーディネーターや市町村担当職員を対象とした研修や各市町村での取組状況など情報共有の機会を提供、令和5年度では全体研修会3回、ブロック別情報共有会3回実施している。県社協に配置する生活支援アドバイザーと連携し、市町村への訪問により助言や情報提供を行うことで協議体の取組を支援する一方、県内市町村での取組について紹介する動画の作成、公開などを行っている。

8. まとめ

今回、団塊の世代が2025年をピークに後期高齢者を迎えるにあたり、これまでの取り組みについて述べたが、県や国に報告の義務はない。成果や取

り組みの方法などについて、数字やグラフなどで表示することができない事案であるので広く住民に知って頂くことが難しい面がある。しかし、県やつくば市、各地域にまで浸透し、関心を持って取り組んでいることが伺えた。地域ごとにアイデアを出し、様々な取り組みでこの2025年問題を乗り越えていけることを願う次第である。

「市長・区長サミット2023」

に於けるテーマ発表の紹介

茎崎地区区会連合会顧問 宮澤 正

令和6年2月20日、「市長・区長サミット2023」が改築落成間もない「コリドイおつくば」に於いて開催されました。

当日は、五十嵐市長はじめ市当局の役職員及びつくば市区会連合会の役員約95名の出席がありました。

冒頭五十嵐市長の挨拶があり、今年度のメインテーマは「持続可能な自治会運営」でありましたので、これに関して3名の方々から次のテーマ発表がありました。

最初に谷田部地区区会連合会研究学園支部副支部長 仲村健様から「研究学園支部誕生までの経緯と今後の展望」という発表があり、次に筑波地区区会連合会小田中部区区長 張元政治様の「小田地区の活性化活動等について」という発表がありました。

最後に茎崎地区区会連合会宝陽台前区長の宮澤正、即ち私が「宝陽台自治会の改革・改善」というテーマで発表しました。発表は、何方も事

前に作成したパワーポイントを使い、持ち時間20分でプレゼンテーションを行い、終了後質疑応答という形で実施されました。

私は令和2年度から4年度までの3年間宝陽台自治会長として取り組んだ事柄で、コンセプトを「住み続けたい宝陽台を目指して」とし、そのために実施した改革・改善について発表しました。

当自治会も昭和55年に組織され、当初は会員の大抵が30代で、その活動は活気溢れるもので近隣懂れの自治会でしたが、40数年経過した現状では高齢化が進み、従前の様な活動は会員にとって大きな負担となっており、大規模な改革が求められていました。しかし、当自治会も近隣多くの自治会がそうであるように、会長をはじめ役員任期が1年であることから、改革案が出されてもある程度検討が進んだところで役員交代となり、改革案が白紙に戻るといふ状況が永い間続いていました。

私が会長に就任して掲げた改革項目は「1. 班構成の再編成」「2. 役員定数の削減と住民ファースト」「3. 自治会業務の軽減」「4. 財政の健全化と会費の削減」「5. 区会・行政との連携と防災対策の強化」の5項目でした。

住民の多くは、万事変化に対しては極めて慎重であり、変化により得られる事柄を想像よりも失う事の現実が脅威で、これらの改革には根強い反対論があり、何れも単年度で簡単に解決出来るものではありませんでした。更に私の任期中の3年間はコロナ禍の真只中でもあつて、大勢での集会が出来ませんでしたので、改革前後の比較表を作成するなどして一つ一つ丁寧に改革のメリットを説明し続けました。そして会長就任翌年の令和3年8月に荃崎交流センターの「市民ホー

ルクきざき」を借り切つて対面により当自治会開關以来の臨時総会を開催し、ここで多くの規約改定と改革・改善案の承認を得ることが出来ました。

改革・改善の具体的取り組みの詳細は、省略しますが、最後に私の任期中に出来なかつた項目を示します。それは「1. 団地内への公共交通乗り入れ」「2. 牛久カッパ号のルート変更とバス停の増設」「3. 公民館前への横断歩道移設」「4. 自治会の法人登記（認可地縁団体の申請）」「5. 区域外就学制度の導入（牛久第二小学校への編入）」の5項目です。これらは何れも自治会単独で出来る事ではありませんので、今後の行政を始め関係各位のご支援とご協力をお願いします。



<市長挨拶>



<発表中の筆者>

### シニアの生き方紹介シリーズ⑬ 折り紙と私

森の里 尾見 秀子

折り紙との関りは、今から数十年前に折り紙講座があり、子どもたちと一緒にできたら楽しそうだなと思つて受講したのが始まりでした。はじめは「山折り・谷折り」もわからず、講師の先生の手元を見ながら必至についていったことが懐かしく思い出されます。現在は教室に通つてはいませんが、本を見

ながら折り紙を楽しんでいます。

毎年、森の里自治会秋の文化祭にも出展させて頂いていますが、毎年何を出そうか、何を折ろうか悩み、いつもぎりぎりになってしまいます。

作品は折り紙の本や、セットものを取り寄せたりして作成します。折り筋が弱かつたりすると、仕上がりがきれいにいかないので一折ごとに丁寧に折るよう心掛けたり、作品展示の際は出典元、創作者名などを明記するようにも心掛けています。

森の里自治会公会堂ロビーに色紙を飾らせて頂いていることも、次の励みになっています。また、頭と指先を使うことは認知症予防になるとの思いを信じて、今後も折り紙を続けていこうと思ひます。



<折り紙中の筆者>



<筆者と展示作品>

### 編集後記

諸般の事情から、本年度3回発行の予定が2回となつてしまいました。

高見原ふれあい会長橋本様の同地区の盛大な行事の様子、稲川顧問様の2025年問題、宮澤顧問様からは、宝陽台自治会改革、森の里の尾見様から趣味の折り紙に関する玉稿をお寄せ頂きました。皆様に感謝します。  
(編集子)